

「まず、山に登ってみよう。これが登山」

半田ファミリー山の会登山講座実技①

2019年4月20日 鈴鹿・鎌ヶ岳（1160m）

4月上旬から開講している半田ファミリー山の会第23回登山講座「基礎から学ぶ安心登山2019」の一回目の実技登山を、4月20日(土)、鈴鹿の鎌ヶ岳で実施した。

当日の参加者は1受講生17人、会員22人の計39人。

午前6時、半田市内に集合、マイクロバスをはじめ3台の車に分乗して、鈴鹿スカイライン沿いの三ツ口谷の登山口に向かった。知多半島道路から伊勢湾岸道、途中から新しくできた新名神を走って菰野ICまで1時間足らず。便利になったものだ。

7時30分。三ツ口谷出合で車を下り、5パーティーに分かれて出発。天候は快晴。無風。

スカイラインから最初の大きな堰堤の上に下りると、尾根の末端のアカヤシオが真っ盛り。広い砂洲を歩いて三ツ口谷の左岸を登り、上部の小さな堰堤を越えて、小さな流れを渡って左岸を進むと、左側の谷には清流がいくつも滝を懸けている。谷の斜面にはタムシバがいっぱい白い花をつけて、鳥の群れが谷を飛んでいるように見える。左岸の山腹を巻く道は左下に深く谷を見下ろすようになり、やがて流れと出合うと、大滝下部の二股の出合である。ここは沢沿いのルートと尾根ルートとの分岐になっており、左手の沢沿いのルートにロープを固定し、メンバーはプルーゾック結びで通過する。ほんのちょっとした装備を持っていれば、こういう安全対策ができることを経験するのが狙いだ。登り切って、大滝を上から見下ろすように山腹を巻く道を斜上して尾根筋ルートと合流し、その先で、道は沢の中に続く。射しこむ朝の光に照らされた沢筋の乾いた岩ときれいな流れ。春めいて、まさに水ぬるむ、という感じだ。左岸へ、右岸へと沢の中の岩を跳びながら進むと長石尾根との分岐。

ひと息入れて、岩と砂礫の源頭部を上がっていくと、ガラ場を登るようになる。今年は雪が解けるのが早かったからか、比較的ガラ場の岩や砂礫は落ち着いていた。受講生を励ましながらかつて登り切ると、武平峠からの道と合流し、砂の斜面から、樹下のよく踏まれた登山道に入る。足元にはところどころ、ショウジョウバカマやイワカガミがピンクの花をつけている。

10分ほどで、今は通行止めになっているかつての山頂への分岐を通り過ぎ、山頂の西側の小さな尾根の末端から尾根上につけられた急な踏み跡を登って頂上に到着。山頂部には多くのパーティーがいて賑やかである。西側に入道岳、野登山、鎌尾根、北側に雨乞岳、御在所岳、スカイラインなどが間近に迫って見える。

時間はまだ10時を回ったところだが、下山を開始する。次から次へと登ってくるひとたちとのすれ違いで時間がかかり、ゆっくりゆっくり下山しながら三ツ口谷との分岐、岩峰を通過する。足元のあちこちにハルリンドウの水色のかわいらしい花が顔を出している。

武平峠からスカイラインまで10分足らず、12時半。全員が駐車場に集って車に乗り込む。スカイライン沿いに停まっている車の多いこと多いこと。車窓からは、まだ新緑というには遠いけれど、樹々が褐色から明るい黄色に変わって、随所にピンクのアカヤシオがちり

ばめられて美しい眺めだ。裏道の登山口周辺にはまだ山桜が咲き残って、白く煙っている。
美しい季節の、いい実技登山になった。